

射水市新湊博物館 開館二十五周年記念特別展

海が支えた放生津幕府

— 明応の政変と足利義材 —

射水市新湊博物館 開館25周年記念 特別展

海が支えた 放生津幕府

ほうじょうづ

— 明応の政変と足利義材 —

めいおう せいへん あしかが よしき



放生津の海中出現伝承を持つ
「絹本着色法華経曼荼羅図」
富山市 本法寺 蔵



足利将軍が主導した「日明貿易」の遺産
「青磁浮牡丹唐草文香炉」
立山町 戸崎寺一山会 蔵
写真:富山県[立山博物館] 提供



支援者に与えた約束の証
「大用心沢等禅僧連署書状」
富山市 興国寺 蔵

「足利義材像」
射水市 放生津橋

放生津城跡

現在の放生津 株式会社エイ・テック 提供

令和5年
9月22日[金] ▶ 11月26日[日]
射水市新湊博物館

開館時間 / 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 / 火曜日、9月25日、11月6日、11月24日

射水市新湊博物館

射水市新湊博物館 開館25周年記念 特別展

海が支えた放生津幕府

室町時代の明応2年(1493)室町幕府を二分する「明応の政変」と呼ばれる事件が発生しました。当時の10代将軍足利義材(義祖)は、京都から越中放生津の神保長誠を頼って下向し、5年にわたって真正の将軍、正統の幕府を称しました。応仁の乱以来、混乱が続いた室町幕府はついに京都と越中に分裂し、戦国争乱激化の契機となりました。本年は義材の没後500年にあたります。環日本海海運のもたらず富に支えられ、北陸の港町に幕府政権を成立させた将軍の足跡と遺産を紹介します。



①



②



③



④



⑤



⑥

主な展示品

- ・中世港湾都市放生津の繁栄を伝える「絹本着色法華経曼荼羅図」(富山市八尾町 本法寺 国指定重要文化財)、第7軸(化城喻品第七)、第9軸(授学無学人記品第九)、第11軸(見宝塔品第十一)……………9月22日(金)～10月23日(月)展示
- ・第15軸(分別功德品第十七・随喜功德品第十八)、第18軸(嘱累品第二十二・薬王菩薩本事品第二十三)、第19軸(妙音菩薩品第二十四)……………10月25日(水)～11月26日(日)展示
- ・義材が日々祈念した「天神坐像」(魚津市 光学坊)①
- ・義材を支えた放生津城主「神保長誠像」(富山市婦中町 本覚寺)②
- ・義材が放生津に掲げた「御幟」(復元)(射水市 放生津八幡宮)③
- ・放生津の海運を保護した「神保慶宗制札」(射水市 尊念寺 射水市指定文化財)④
- ・富山海運の遺産「珠洲焼仏頭」(射水市 福王寺)⑤
- ・義材がいたころの放生津を漢詩で伝える「光厳東海和尚録」(富山市 光厳寺)⑥
- ・室町・戦国時代を写す「太平記」・「応仁記」(富山県立図書館)

呈茶会

足利将軍がパトロンとなって発展した室町文化の一つ「茶道」に触れる「呈茶会」(射水市芸術文化協会茶道部主催)
10月22日(日)午前10時～午後3時 呈茶券500円(中学生以下350円)

展示解説会

9月30日(土)、10月7日(土)、21日(土)、28日(土)、11月18日(土)
毎回午後2時から

※呈茶会・展示解説会は申込み不要、観覧料が必要です



射水市新湊博物館
ホームページ

ご案内

交通案内

- ・万葉線新湊駅からタクシーで約6分
- ・あいの風とやま鉄道小杉駅からタクシーで約10分
- ・北陸道小杉インターから北へ直進6.5キロ、約10分
- *道の駅「カモンパーク新湊」北側に隣接

観覧料

※障がいのある方の付添1名無料

区分	個人	団体(20名以上)
一般	310円	250円
65歳以上の方 障がいのある方	150円	120円
中学生以下	無料	

※「孫とおでかけ支援事業」対象施設です



次回の企画展

生誕130年
石黒宗麿

2023年12月1日(金)

2024年2月12日(月・月・月休)



射水市新湊博物館

〒934-0049 富山県射水市鎮宮299番地 TEL(0766)83-0800 FAX(0766)83-0802
E-mail hakubutsu@city.imizu.lg.jp URL https://shininato-museum.jp/

特別展チラシ(裏)

ごあいさつ

明応二年（一四九三）、京都で「明応の政変」と呼ばれる事件が発生しました。当時の室町幕府十代将軍足利義材（義植）は、京都から越中放生津（射水市）の神保長誠を頼って動座し、五年にわたってこの地で真正の将軍、正統の幕府を称しました。

応仁の乱以来混乱が続けていた幕府はついに京都と越中に分裂し、戦国争乱激化の契機となりました。

本年は義材の没後五百年です。環日本海海運の富に支えられ、北陸の港町に幕府政権を成立させた将軍の足跡と遺産を紹介します。

展示品は、富山県内で長く守り受け継がれてきた文化財です。お貸し出しいただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

令和五年 秋

射水市新湊博物館

目次

ごあいさつ

室町将軍の遺産と伝承

日本海の大港 放生津

越中の室町時代と応仁の乱

明応の政変

放生津幕府

展示品一覧

系図

年表

構成

地図

凡例

・本資料は、令和五年九月二十二日（金）から同年十一月二十六日（日）まで開催した射水市新湊博物館開館二十五周年記念特別展「海が支えた放生津幕府―明応の政変と足利義材―」の展示記録です。

・本記録と展示構成は、一部異なる場合があります。

・一部の史料写真・翻刻の掲載を省略しました。

・本展の企画立案・展示構成、本記録の執筆作成は松山充宏が担当しました。
・本記録に掲載した写真の一部または全部を、所蔵者及び射水市新湊博物館の許可なく複製、転載することを禁止します。

令和五年十一月二十六日

射水市新湊博物館

① 足利義材像

放生津城のそばを流れる内川にかか

る橋の上に、甲冑姿の像と、装束姿

の像があります

射水市立町（放生津橋）



室町將軍の伝承と遺産

南北朝時代の建武三年（一三三六）

京都に室町幕府ができました。室町幕府は南北朝の争乱をしずめた後、明（中国）と貿易を行いました。幕府が京都に置かれたため、公家と武士の文化、

また武士の人気を集めた禅宗の文化が合体した北山文化や東山文化が生まれました。これらは現在の日本文化の基礎とされています。

こちらでは、富山県内に伝えられる室町幕府將軍足利家ゆかりの品や場所、室町時代の東アジア貿易、また越中（富山県）が面する富山湾内の交易で運ばれた文化財を紹介します。

② 絹本著色法華経曼茶羅図

仏教經典の「法華経」の物語を二二幅の掛軸に描いた絵画です。由来を書いた裏書に、明応年間（一四九一〜一

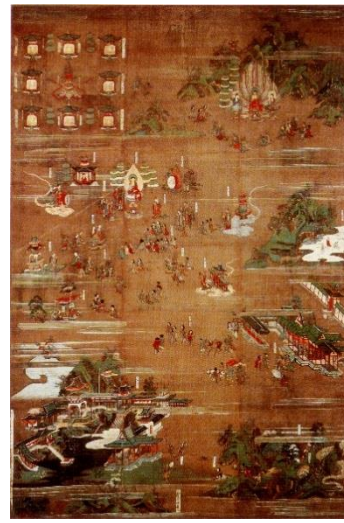
五〇一）に海中から引き揚げられたと記されています。また別の記録では、引き揚げられた場所を放生津（射水市）としています。これは、京都から海運で放生津へ運ばれたことを反映した伝承とされています。放生津を本拠としていた神保氏が本法寺へ奉納したとされ、毎年八月六日に絵解き（公開と解説）が行われています。

嘉暦元々三年（一三二六〜二八）製作
富山市八尾町宮腰 本法寺 蔵
国指定重要文化財



化城喻品（第七軸）
 王位を捨てて修行し仏となった大通智勝仏と王子たちの物語です。王子の一人が阿弥陀如来になつたと説かれています。

嘉暦元年（一三二六）製作



授学無学人記品（第九軸）
 仏教を開いた釈迦如来が、多くの弟子に対して説法し、未来にはみな必ず仏となることができると約束しています。

嘉暦元年（一三二六）製作



見宝塔品（第十一軸）
 多宝如来の住む塔が大地から現れ、釈迦如来が塔の中に入って座ると、塔と周囲の人々が空に昇っていったとされています。

嘉暦二年（一三二七）製作



分別功德品・随喜功德品（第十五軸）
 仏の教えが、世代を超えて多くの人に伝わることで生じる幸せを説明しています。

嘉暦三年（一三二八）製作



嘱累品・薬王菩薩本事品（第十八軸）
 仏がその教えを後世に伝える者の名、また苦しい修行をして仏となった者を紹介しています。

嘉暦元三年（一三二六～二八）ころ製作



妙音菩薩品（第十九軸）
 音楽の力で仏の徳を讃えた妙音菩薩を紹介しています。

嘉暦三年（一三二八）製作



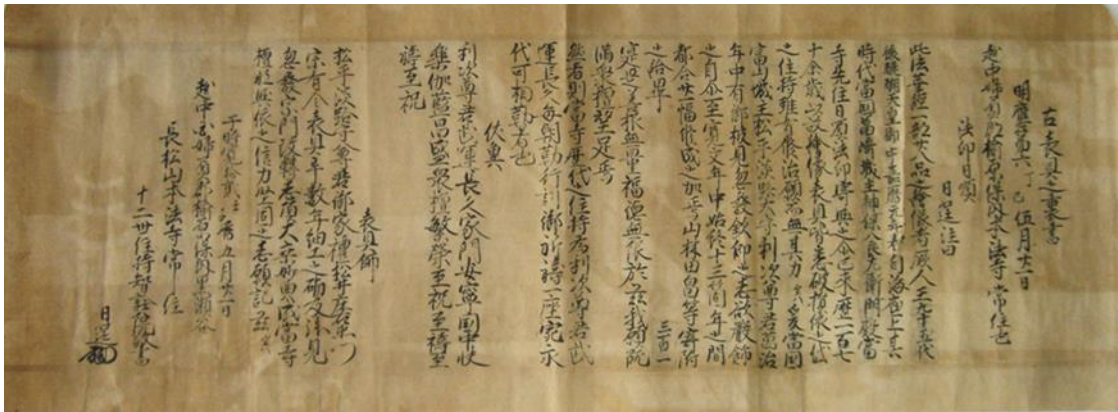
③法華経曼荼羅図 裏書

江戸時代の法華経曼荼羅図修理記録です。

明応六年（一四九七）に本法寺の所有であったこと、また海中出現や神保氏が奉納した言い伝えが書かれています。

明応年間の本法寺は、飛騨（岐阜県北部）と越中（富山県）を結び道と川を支配する武士が深く信仰していました。当時の放生津に足利義材がいました。そのため、義材を支えた放生津城主の神保長誠が曼荼羅図を手に入れ、国境を守る武士を味方につけるため本法寺へ奉納したという説があります。

寛文十二年（一六七二）
富山市八尾町宮腰 本法寺 蔵
富山市指定文化財



【史料翻刻】

古表具之裏書

明應第六丁卯五月廿一日

越中婦負郡榆原保内本法寺常住也

法印日順

日蓮注曰

此法華經壹部廿八品之絵像者、厥人王九十五代後醍醐天皇御宇、嘉曆元年春自海底上、其時代当国富崎城主神保八良左衛門殿、当寺先住日順法印奇與之、爾已來歷一百七十余歳、以故絵像表具皆悉破損、依之代々之住持雖有修治願而無其力矣、爰当国富山城主松平淡路大守利次尊君、万治年中有御披見、忽発欽仰之志、欲嚴飾之、自爾至寛文年中始終十三箇年之間、都合廿一幅修成、之加焉山林富田等寄附之給畢、

「三百一」

寔是善根無量福德無限於茲我願、既滿衆檀望足焉、然者則當寺歴代之住持、為利次尊君武運長久、每朝勤行刻御祈禱一座宛永代可相勤者也、伏冀利次尊君、武運長久・家門安寧・国中快樂・伽藍昌盛、衆檀繁栄、至祝至禱、

至禱至祝、

松平淡路守尊君御家礼松井庄右衛門宗有令表具畢、数年細工之砌及拜見、忽発宗門改転志、頂大乘妙典、成當寺檀那與信之、信力堅固之志願記茲矣

于時寛文拾貳壬子曆五月廿一日

越中国榆原保内黒瀬谷

長松山本法寺常住

十二世住持智詮院 敬書

日暹（花押）

〔意識〕

以前の表具の裏書

明應六年五月二十一日

越中婦負郡楡原保の本法寺の所有品です

法印日順

この法華経曼荼羅図は後醍醐天皇の嘉暦元年に海底から引き揚げ、神保氏が本法寺へ寄進しました。その後、富山藩主前田氏の寄附を受けて修理しました。

寛文十二年五月二十一日

本法寺住職 日暹

※傍線部分は、紙を貼って書き改められています。もともとは左のように書かれていました。

此法華経壹部廿八品之絵像者、厥人王一百四代後土御門御宇、明応年中自海底上、其時代当国富山城主従神保若狭守殿、当寺先住日順法印寄與之、爾已来歴一百七十余歳、以故絵像表具皆悉破損、：

〔書き改める前の文章の意識〕

この法華経曼荼羅図は後土御門天皇の明応年間に海底から引き揚げ、神保氏が本法寺へ寄進しました。

④青磁浮牡丹唐草文香炉

この香炉は越中の立山を管理した衆徒の長が受け継ぐ宝とされ、長官香炉と呼ばれています。室町将軍が奉納したと伝えられていることから、室町幕府が推進した日明貿易の輸入品とみら

れます。足利家ゆかりの鏝阿寺（栃木県）には、足利尊氏奉納と伝わるよく似た香炉があります。

一二〜一四世紀 南宋

富山県立山町 芦峯寺一山云蔵

富山県指定文化財

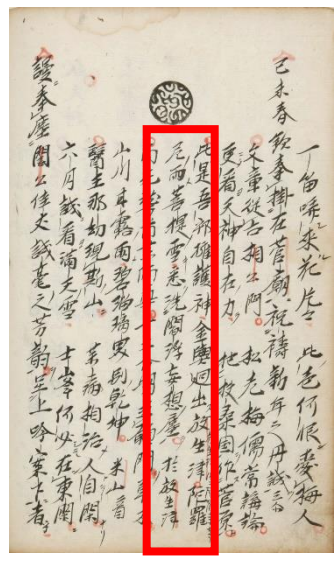
写真提供：富山県「立山博物館」



⑤ 光厳東海和尚語録

神保氏出身の禅僧である東海宗洋の詩文集です。義材が滞在していた当時の放生津で、放生津八幡宮から出された黄金に輝く神輿の行列を見たと言われています。都市祭礼であるこの神輿行列は、現在も「放生津八幡宮祭の曳山行事」(国指定重要無形民俗文化財)の中に受け継がれています。

室町時代
富山市五番町 光厳寺 蔵



【翻刻】

(異筆)放生津内二陀羅寺在リ) 此是吾邦擁護神、金輿廻出放生津、

陀羅尼両菩提雪、悉洗閻浮妄想塵

於放生津

⑥ 放生津八幡宮祭の神輿(写真)

現在は十月一日に神輿と曳山十三基の巡行が行われます。曳山行事は国指定重要無形民俗文化財です。

放生津八幡宮曳山・築山保存会



日本海の大港 放生津

放生津(射水市)は奈良時代に漁村、鎌倉時代以降は港町となり、日本海交易で栄えました。

放生津の東に放生津潟がありました。潟と河川を通じて米や産物が集められ、潟から流れ出る内川の周辺を港として海を行く船に積み替えました。

奈良時代、放生津の西にあたる伏木(高岡市)に朝廷の役所である国庁が置かれました。

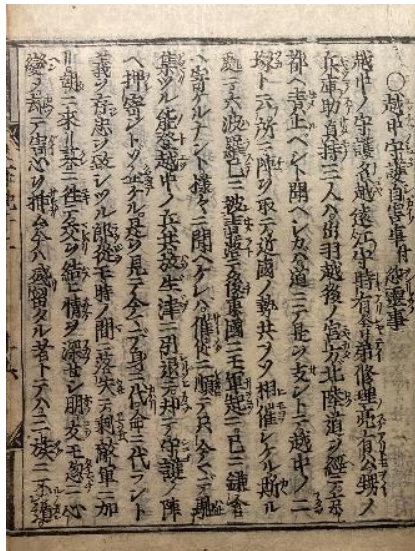
武士が国を動かす鎌倉時代になると、武士政権である鎌倉幕府は越中の武士を管理する守護所を放生津に設けました。室町時代以降は放生津が越中の中心となっていきました。

⑦『太平記』巻第十一

鎌倉時代末、北条氏の政治に不満を

持つ後醍醐天皇や武士が兵を挙げ、元弘三年(一三三三)に鎌倉幕府は滅亡しました。この本には、この争乱の中で名越時有が、放生津城(射水市)で自害し、一族は幽霊となったと記しています。時有は、幕府が越中を管理するため派遣した守護と呼ばれる役でした。

江戸時代
富山県立図書館 蔵

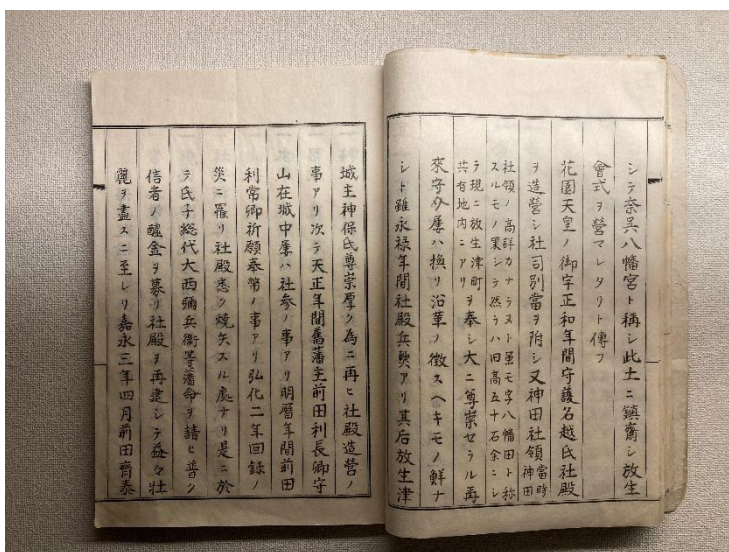


⑧神社明細帳 並 由緒書

鎌倉時代に越中守護の名越(北条)

時有が放生津八幡宮(射水市)の社殿を建てたという伝承が記されています。当時の放生津は、日本海に面した大きな港町でした。鎌倉幕府は放生津に守護所を置き、守護と呼ばれる有力武士が越中の武士を支配しました。

明治時代
射水市八幡町 放生津八幡宮 蔵

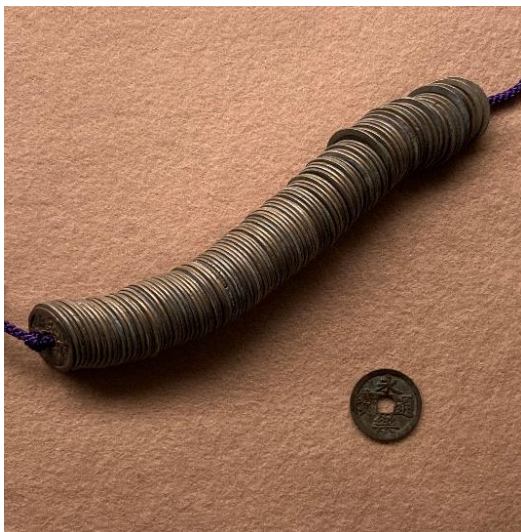




⑨放生津八幡宮（写真）
鎌倉時代以降、港町と海運、そして守護所に集った武士を守る神として名越氏、神保氏が保護しました。
射水市八幡町



⑩放生津城跡出土品
室町・戦国時代の地層から、中国製の青磁・白磁の碗や皿の破片が出土しました。
昭和六十三〜平成三年（一九八八〜九一）
射水市教育委員会 調査 蔵



⑪永楽通宝
室町幕府三代将軍足利義満は明（中国）から銅銭の永楽通宝や青磁製品などを輸入し、多くの富を得ました。日本国内では永楽通宝の写しも铸造されました。義満以後の足利将軍も、明から認められた称号として「日本国王」を名乗り、李氏朝鮮などとの貿易を行いました。
個人寄贈 柴屋資料
射水市新湊博物館 蔵

⑫ 珠洲焼 仏頭

放生津は富山湾に面した港町で、湾内を行き来する船が多く出入りしました。能登半島の北端にある珠洲（石川県）では古くから陶器の甕や壺のほか、こうした仏像が作られ、各地へ流通しました。本像は、放生津にあった禅宗寺院で、室町幕府が保護した興化寺跡周辺で出土しました。

室町時代
射水市加茂中部 福王寺 蔵



⑬ 天目茶碗（破片）

天目茶碗は抹茶を飲むために使うもので、放生津城跡から出土しました。茶を飲む風習から生まれた文化が茶道です。室町幕府八代将軍足利義政は、茶道の成立に深く関わりました。義政の甥にあたる義材が過ごした放生津で、茶道文化も定着していたことがうかがえます。

室町時代 美濃焼
射水市教育委員会 蔵



越中の室町時代と応仁の乱 おうにん らん

室町時代、越中は足利一門の畠山氏 はたけやま が守護として支配しました。畠山家は守護代として新川郡に椎名氏 しいな、砺波郡に遊佐氏 ゆさ、射水郡と婦負郡に神保氏を派遣しました。神保氏は放生津城を本拠としました。

一五世紀半ば、畠山政長と畠山義就 よしひろ が畠山家の当主の座を争いました。放生津城主の神保長誠は政長派で、政長と義就の合戦にも参加しています。畠山家の争いに、室町幕府八代将軍足利義政の後継を巡る争いも加わり、文正二年（一四六七）から十一年にわたる「応仁の乱」が始まりました。

⑭室町幕府将軍の足利氏

鎌倉幕府滅亡後に始まった後醍醐天皇による政治は数年で崩壊し、建武三年（一三三六）下野 しもつけ（栃木県）の武士である足利尊氏が京都で室町幕府を開

きました。幕府の首長である将軍は、尊氏の子孫が十五代にわたって受け継ぎました。

足利氏の菩提寺は等持院（京都市）で、五代・十四代を除く歴代の将軍像が安置されています。

江戸時代 個人蔵
等持院刷物



⑮桃井直常像 ももい ただつねぞう（本朝百将伝）
足利氏の一門出身で越中の守護となり、放生津を拠点とした武将です。室町幕府の内部で足利尊氏と弟の直義が争った「観応の擾乱」のとき、直常は越中の武士を率いて尊氏に背きました。その結果、古くからの越中武士の家は没落し、新たに幕府関係者が越中で領地を与えられました。

江戸時代
個人蔵



⑩ 足利義満寄進状写

応安五年（一三七二）、三代將軍足利義満は、放生津（射水市）と姫野（高岡市）を石清水八幡宮（京都府）の領地としました。越中に、こうした幕府に関わる家や寺社の領地が多く存在したことが、義材の放生津入りに影響を与えた可能性もあります。

個人寄贈 木倉豊信関係資料

原本…石清水八幡宮文書

昭和前期

射水市新湊博物館 蔵

【史料翻刻】

奉寄 石清水八幡宮

越中国姫野一族跡事

右所寄進之状、如件

応安五年十一月廿二日

（足利義満）
左馬頭源朝臣（花押影）

⑪ 室町幕府御教書写

応安五年（一三七二）以後、室町幕府は放生津を石清水八幡宮の領地とし、

放生津へ出入りする船の入港税も石清水八幡宮へ納めさせることとしました。しかしこの命令が守られていなかったため、幕府は越中守護の畠山基国へ再発防止を命じました。畠山氏も足利一門です。

個人寄贈 木倉豊信関係資料

原本…石清水八幡宮文書

昭和前期

射水市新湊博物館 蔵

【史料翻刻】

石清水八幡宮雑掌申越中国放生津湊船事、申状如此、子細見状、就注進状、其沙汰了、所詮当湊、為御寄進之地、姫野跡内之上者、彼往来船課役、社家宜進止歟、早停止其妨、可被全神用之状、依仰執達如件

永徳二年三月十八日

（斯波義将）
左衛門佐（花押影）

（畠山基国）
畠山右衛門佐殿

⑫ 神保長誠像

神保氏は越中守護畠山家の家臣です。室町時代、各国は幕府が任命した守護大名が支配しました。神保氏は京都に住む畠山家に代わって越中の婦負郡（富山市の西部）・射水郡（射水市・高岡市・氷見市周辺）を管理する守護代でした。神保長誠は戦のみならず行政にも長じた武将でした。応仁の乱の原因となった畠山家の跡継ぎ争いでは畠山政長に味方しました。放生津へ来た義材を厚くもてなしました。

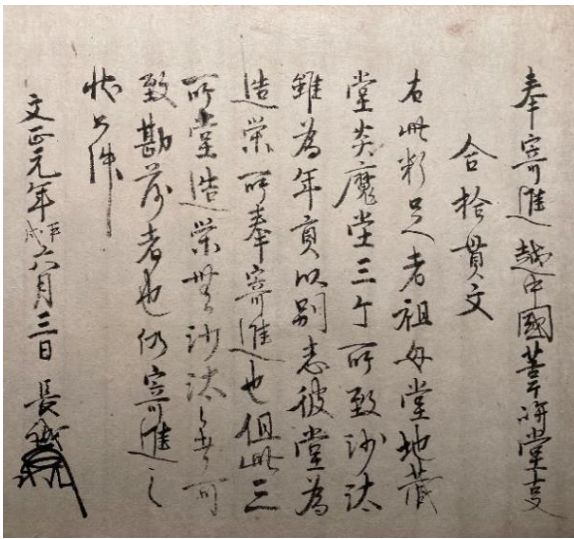
江戸時代
富山市婦中町富崎 本覚寺 蔵



⑱ 神保長誠寄進状

新川郡の靈山れいざんである立山に対し、年ねん貢を免除する代わりにお堂を作るように命じています。神保氏は新川郡を管理する守護代ではありませんが、主君の畠山氏は越中を支配する中で神保氏を重く用いました。

越中立山芦峯寺古文書
文正元年（一四六六）六月三日付
富山県立山町 芦峯寺一山会 蔵
富山県指定文化財
写真提供…富山県立山博物館



【史料翻刻】

奉寄進 越中国芦峯堂事
合 拾貫文

右此料足者、祖母堂・地藏堂・炎魔堂三ヶ所致沙汰、雖為年貢、以別志、彼堂（堂）為造栄所奉寄進也、但此三所堂造栄無沙汰候者、可致勘落者也、仍寄進之状、如件

文正元年丙戌六月三日 長誠（花押）

⑳ 楊柳観音像

神保氏が領内に広がった流行病の消滅を祈ったと伝えられています。

富山市婦中町富崎 本覚寺 蔵
奈良時代後期 重要美術品



コラム 発掘された楊柳観音像

本覚寺は、神保氏の拠点である富崎城のふもとにあります。戦国時代、楊柳観音像を隠すため、住職が石の箱に入れて埋めてしまいました。宝永六年（一七〇九）七月十八日に境内での工事中、石の箱が見つかりました。これを記念し、毎年八月十八日に法要が行われています。

㉑ 放生津古城跡御蔵屋敷絵図

神保氏の本拠であった放生津城の跡を江戸時代に測量した絵図です。明応三年（一四九四）九月、義材は放生津城（むけみはた）に武家御幡（正式な幕府の軍を示す旗）を立てさせ、正統な將軍・幕府が放生津にあることを眼に見える形で示しました。

石黒信由関係資料
享和三年（一八〇三）

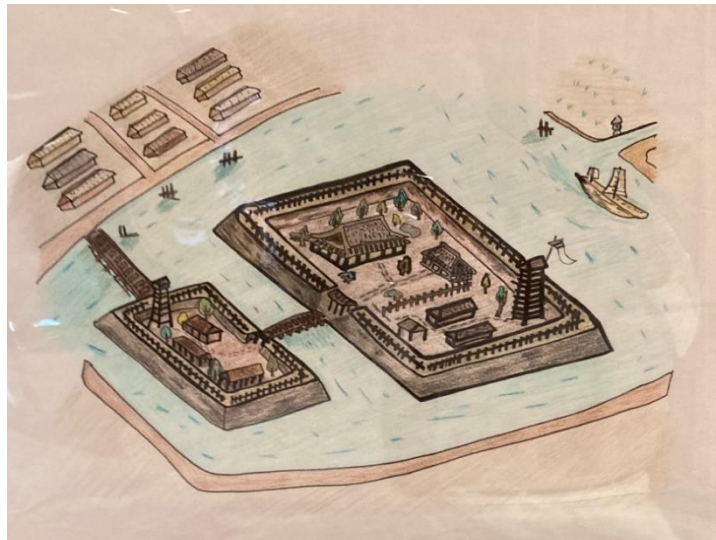
一般財団法人高樹会 蔵
国指定重要文化財



②② 放生津城 (想像図)

城は内川の水源に当たる場所にあり
ました。川を水堀として利用していた
とみられます。
新湊市民文庫『放生津城跡を掘る』

掲載図
製図
久々忠義
鈴木菜都
彩色



②③ 放生津城跡の発掘 (写真)

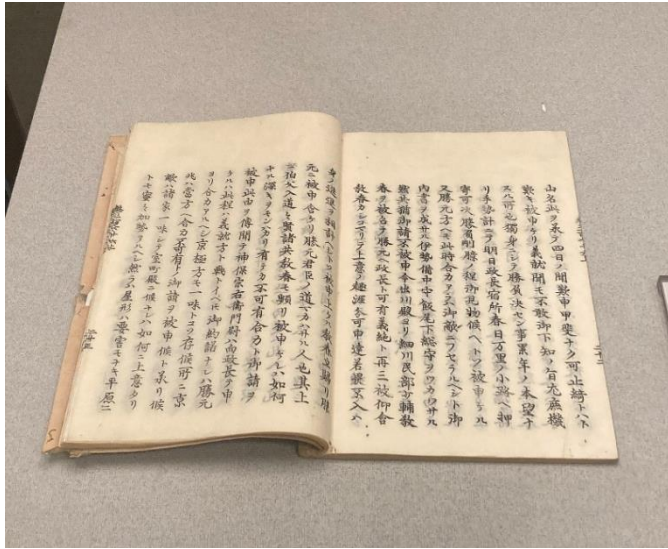
遺構は射水市立放生津小学校グラウ
ンドの地下にあり、地上から見るこ
と

はできません。近くに記念碑と解説板
があります。
昭和六十三〜平成三年(一九八八〜九二)
調査
射水市指定史跡



②④ 「応仁記」

おうにんき
越中守護畠山家の後継者争いをき



富山県立図書館 蔵

群書類従

霊林合戦が、応仁の乱の始まりです。
 をきっかけに政長と義就が戦った御
 文正二年（一四六七）、長誠の進言
 による畠山家当主争いのとき、放生津
 城主の神保長誠は政長側に立ちました。
 っかけに起きた応仁の乱のいきさつを
 まとめた本です。畠山政長と畠山義就



イチオシ武将の推しうちわ
 富山県内の中学生と小学生が展示で
 紹介した足利義材と桃井直常に関心を
 持って作ってくれました。



明応の政変

足利義政の没後、義政の甥である足利義材が十代将軍となりました。

義材は応仁の乱で衰えた将軍や幕府の力を盛り返すため、近江（滋賀県）や河内（大阪府）に遠征を繰り返しました。

応仁の乱以降、幕府の主導権を握っていた大名である細川政元や、幕府財政を長年司っていた伊勢貞宗は義材と対立することも多く、義政正室の日野富子を味方として反乱を起こしました。登場人物や事件の経緯を詳しくみていきましょう。

足利義材の誕生

義材は、銀閣（慈照寺観音殿）を建てた八代将軍足利義政の弟である足利義視の子として、文正元年（一四六六）に誕生しました。義視は義政の次の将

軍として指名されていました。しかし義政に男児（九代将軍義尚）が生まれると、義視の立場は不安定となりました。義材誕生の翌年に京都で始まった「応仁の乱」に巻き込まれた義視と義材の親子は、美濃（岐阜県）へ移りました。



参考写真 足利義政像写

「野村」文紹『肖像』一之巻
国立国会図書館デジタルコレクション

義材、将軍となる

長享三年（一四八九）、九代将軍足

利義尚が出陣先の近江で没しました。義視・義材父子は京へ帰り、翌年正月に義政が亡くなると、二十四歳の義材が十代将軍となりました。

将軍になれなかった義視は、前将軍を指す「大御所」と呼ばれ、義材を支えて政治を行おうとしました。しかし重い病となり、翌年正月に兄義政の後を追うように亡くなりました。

父を失った義材は、応仁の乱を経て衰えた将軍の力を取り戻すため、幕府の命令に従わない大名がいる近江（滋賀県）や河内（大阪府）への出陣を行いました。

将軍交代を謀る人々

このころの幕府の中に、義材の将軍家継承や相次ぐ出陣に不満を持つ勢力がありました。その背景として、応仁の乱以来続く幕府内部対立があります。特に最有力の大名である細川政元や、幕府の財政を管理していた伊勢貞宗は、故義視と対立していました。政元と貞宗は、義材の伯母である日野富子（義政の正室）を味方に引き入れ、義材を

將軍職から追い払う計画を進めていき
ました。



参考写真 細川政元像古写真(部分)

原本：京都市 龍安寺蔵

国史大図鑑編輯所編『国史大図鑑』三

吉川弘文館、一九三二年

国立国会図書館デジタルコレクション

將軍解任劇の始まり

明応二年(一四九三)二月、義材は
越中・河内の守護大名である畠山政長
と手を結び、政長と対立する畠山基家
(義就の子)がいた河内を攻めました。

畠山家も細川家に並ぶ有力大名でし
たが、応仁の乱の前から跡継ぎ争いが続
き、乱れていました。義材は政長を有
力な味方とすることで、細川政元に対
抗しようとした。同年四月、義材
不在の京都で細川政元と伊勢貞宗が兵
を挙げ、日野富子を担ぎ出しました。
そして義材を將軍職から解任し、足利
義澄(義材の従兄弟)に將軍を交代さ
せようとした。

解任劇から逆転劇へ

反乱を起こした伊勢貞宗は、河内に
出陣している大名や奉公衆(將軍に仕
える家臣)に手紙を送り、京都へ帰る
ように求めました。多くの人は京都
へ去り、義材のもとには四十人ほどの
側近しか残りませんでした。細川軍の
攻撃の中で畠山政長は自害し、義材は
捕らえられて京都へ送られました。そ
して細川氏の家来の家に閉じ込められ
ることとなりました。同年六月の暴風
雨の夜、義材は身近な武士たちの手引
きで脱出しました。義材は近江、美濃
を経て越中放生津へ向かいました。義

材がいなくなった京都周辺は大騒ぎと
なりました。

⑤神保長誠書状写

政変が起きた年の冬、神保長誠が勸
修寺(京都府)へ送った手紙です。七
月初めに義材が突然放生津へ来たと言
っています。長誠は病気のため花押(サイン)
を書かず捺印しています。長誠
の病気は、義材の判断に大きな影響を
与えました。

個人寄贈

木倉豊信関係資料

原本：勸修寺文書

昭和前期

射水市新湊博物館 蔵

【史料翻刻】

(包紙)

西林院 御同宿中

神保越前守長誠

(本紙)

其後者久不能拝顔候、御床敷存候、仍

世上之儀、言語道断次第候、就中、公
方様は去七月初御下向候、不慮之儀、
爰元馳走此事候、隣国各不存疎略之様
候間、目出存候、御祈念肝要候、将又
我々自去正月初、令半中風、于今散々
式、不能判形候間、以印申候、其恐不
少候、猶々逸見民部丞方へ御懇被仰下
候、恐悦候、年内無余日候間、来春者
早々可申候、恐惶謹言

十二月十三日 長誠(印影)「長誠」
西林院 御同宿中

〔現代語訳〕
しばらくお会いしていませんが、お
元氣ですか。世の中は大変な騒ぎです
ね。

特に將軍足利義材様は去る七月初め
に放生津へお出でになられ、びっくり
しながらもお世話しています。近く大
名たちも將軍様を大事に思っているよ
うで、安心しています。

さて、この正月から私は病気で身動
きが取れないので、手紙にサインでは

なくハンコを押してあります。

また逸見民部丞へもいろいろご連絡
いただき、ありがとうございます。来
年はもっと早くにご挨拶を差し上げた
く思います。

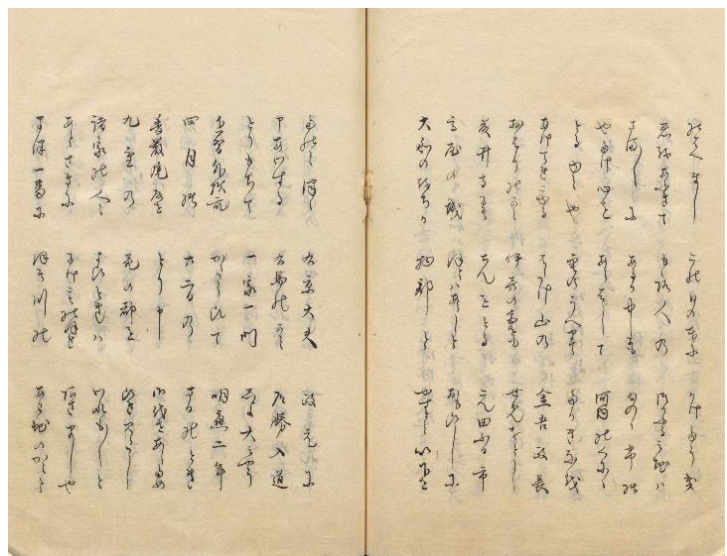
十二月十三日 神保長誠
西林院の皆さまへ

② 金言和歌集 (写真)

明応の政変を風刺した狂歌集です。

義材に同情し、政変を起こしたとされ
る細川政元らを批判する和歌が収めら
れています。義材の周辺で作られたも
のとされています。放生津の義材のも
とには、幕府の財政を担った伊勢一門
の伊勢貞仍(宗五)をはじめ、歌人と
して知られる人々もいました。

続群書類従
国立公文書館デジタルアーカイブ



【史料翻刻】

のはへまし この日の本に かけたう
き君(義材)をあふきて もろ人の つかふ
るみちは さまさまに あるか中にも
もの心の やたけ心を あらはして
河内のくにに とるゆみや 雲のうへ

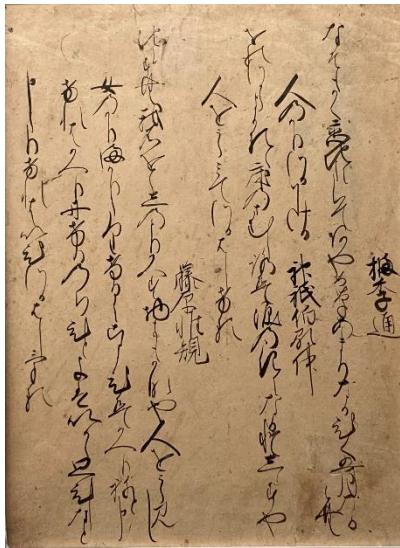
まで たかきなを あけてきこゆる
 はだけ山の 金吾政長 (畠山尚順) おはりのかみ
 伊喜の宮をも せめおとし 藤井寺に
 そ ちんをとる (善) こん田ふる市 (古) 高屋
 の城 ほとはあらしと おもひしに
(越前守米) (上原元秀) (安富元家)
 大和の越ちか 物部と やすとみ
 以下を たのみつゝ 右京大夫 政元
 に 申あ八する (細川政國) 右馬のかみ 道勝入
 道 とりもちて 一家一門 しょ大ミ
 やう 近習外様衆 かたらひて 明応
 二年 四月の 廿二日の さるのとき
(足利義澄)
 香厳院殿を とり申 御代をあらため
 九重の 花の都を ひきみだし 諸家
 の人々 よひとれは われもわれもと
 あとさきに にけこそほれ あさま
(尚香)
 しや まつ一番に ほそ川の あわち
 のかみと

②7 伝足利義視筆 金葉集切 きんようしゅうぎれ

これは古筆切と呼ばれるものです。著

名人が書写した本を切り出し、書跡と
 して鑑賞しました。室町幕府は京都に
 あったため、足利將軍家は公家文化に
 親しみ、武士文化と融合した北山文化
 や東山文化を主導しました。義視は権
 力争いや戦乱に左右される人生を送り
 ましたが、和歌に親しむ文化人として
 評価されていたことを伝えていきます。

伝 室町時代
 個人蔵



【史料翻刻】

(閏五月侍のける年、人を語らひ

けるが、後の五月過ぎてなど申し
 ければ詠める)

橘季通

なぞもかく恋ぢにたちてあやめ草あま
 りながひく五月なる覽

人のもとにつかハしける

神祇伯顯仲

をのづから夜がるゝ床のさむしろは涙
 のうきになるとしらすや

人をうらミてつかはしける

藤原惟規

池にすむ我名ををしのとりかへす物に
 もがなや人をうらみじ

女のかりにまかりたりけるに こ
 よひはかへりねと申しければかへ
 りにけるのち ひとよはいかか思
 ひしなど申したりければいひつか
 はしける

(藤原正家朝臣)

※橘季通(？～一〇六〇)：式部大丞、藏人、内蔵権助、駿河守を歴任し、従五位上に入った。父則光の妻に清少納言がいるものの、季通の母かどうか不明。

※(源)顯仲(一〇五八～一一三八)：右大臣源顯房の子。国司を歴任し、のち左京大夫となり、神祇伯を兼ね、従三位に入った。

※藤原惟規(九七四？～一〇一一)：越後守藤原為時の子。紫式部の同母兄弟。文章生から少内記となり、兵部丞、六位藏人、式部丞を経て従五位下に入ったが早世した。

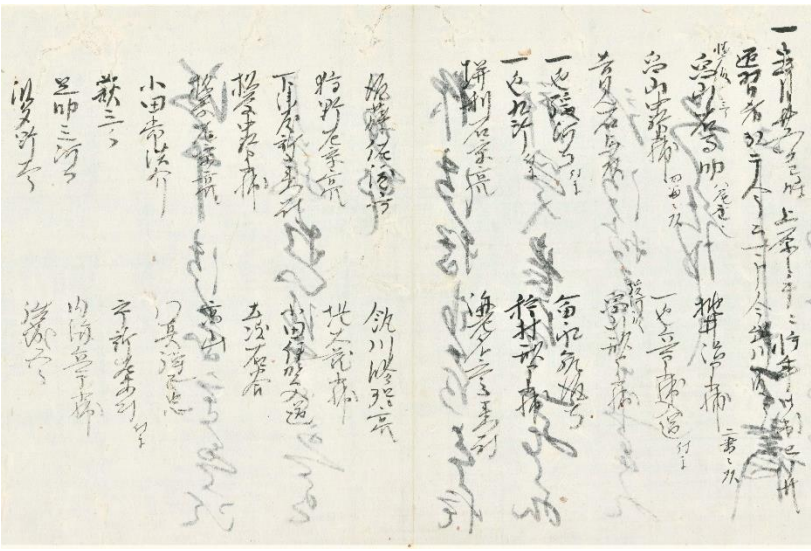
※(藤原正家)：式部権大輔。白河天皇の藏人頭となった。

②⑧ 大乘院寺社雑事記(写真)

奈良興福寺の住職の日記です。反対勢力に包囲された畠山政長は自害し、義材は降伏して京都へ連行されました。これは、義材の降伏まで同行していた奉公衆(將軍に仕える家臣)の名簿です。畠山政近や、越中に領地を持つ桃

井政信らの名が見えます。後日、彼らが放生津幕府に関わっていきます。

明應二年五月一日条
国立公文書館デジタルアーカイブ



【史料翻刻】

- 一 去廿五日巳時、(上原元秀)上原之手二將軍御出、御共近習者、於于今者可申
- 今出川殿云々
- 畠山右馬助 (政信) 八尾主也
- 桃井治部少輔 (政近) 二番尺頭
- 畠山中務少輔 (親元) 四番尺頭
- 一色兵部少輔入道 (義隆) 付奉
- 吉見右馬頭 (成清)
- 畠山駿河殿形部少輔 (親久)
- 一色駿河守 (親久) 付奉
- 富永筑後守 (親久)
- 一色九郎 (親久) 付奉
- 種村形部少輔 (親久)
- 併和右京亮
- 海老名六郎左衛門尉 (親綱)
- 後藤佐渡守 (長信)
- 飯川修理亮 (長信)
- 狩野左京亮
- 堤大藏少輔
- 下津屋新之衛門尉

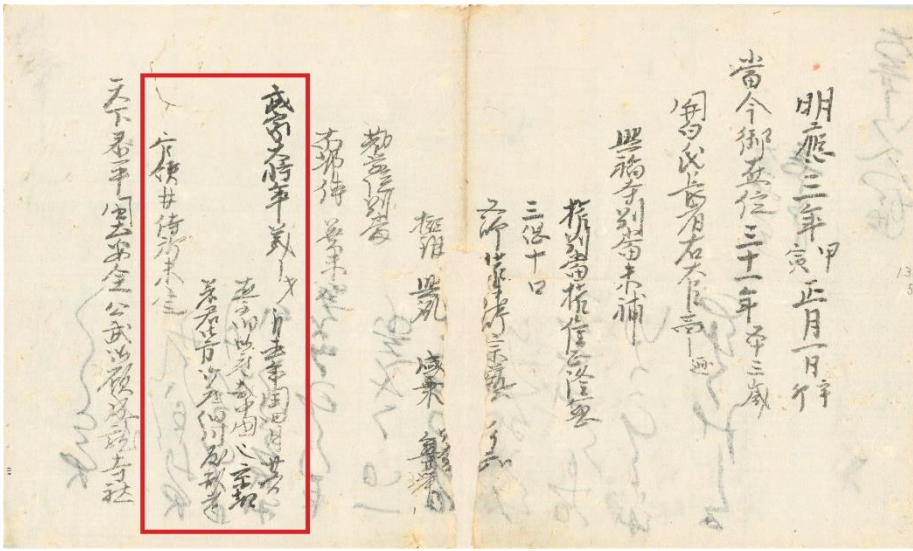
小田伊賀入道
(盛恒)
 杉原中務少輔
 土岐石谷
(和助)
 杉原左京亮
 高山
 小田常陸介
 門真弾正忠
(元三)
 萩三郎
(貞明)
 市新左衛門尉 付奉
 足助三河守
(貞季)
 内海兵部少輔
 波多野太郎
 結城五郎

⑳大乗院寺社雜事記(写真)

明應三年(一四九四)の元日、奈良の興福寺の住職が自身の日記の冒頭に書いた記録です。最初に当時の後土御門天皇、続いて朝廷、興福寺、室町幕府の要人に関する情報を書いています。事情があつて「武家大将軍」(義材)が越中に滞在中、若君(義澄)が細川政

元の保護下にあると記されています。

明應三年一月一日条
 国立公文書館デジタルアーカイブ



【史料翻刻】

武家大将軍義一才

自去年閏四月廿五日

在子細、御座越中国也、京都

若君御方御座細川屋形者也、

官領并侍所未定、

- ※武家大将軍：征夷大将軍のこと
- ※：貴人の名は直接書かない慣例があつた。
- ※閏四月廿五日：七月初旬の誤り
- ※若君御方：細川政元らが擁立した足利義澄
- ※官領：幕府の政治を取りまとめる管領
- ※侍所：京都市中の警備を行う侍所頭人
- ※未定：応仁の乱以降、管領・侍所頭人は常置されていなかった。



特別展記念缶バッジ

放生津幕府

明応二年（一四九三）六月、足利義材は幽閉先を脱出し、故畠山政長の重臣である神保長誠を頼って放生津へやってきました。

京都では義材の従兄弟が新たに將軍とされていましたが、義材は放生津で引き続き將軍として振る舞いました。義材に同行した奉行人^{ぶぎみじん}や奉公衆と呼ばれる武士たちが義材を支えました。義材は京都への復帰を第一目標として政務を行ったことで、ここに放生津幕府が出現しました。

この政権は、義材が越前（福井県）に移る明応七年（一四九八）まで国内の政治情勢を左右しました。

真正の將軍

政変当時の放生津は、東アジア海域の交易網にも直結する日本海海運の大港でした。港を支配する放生津城の主であった神保長誠は豊かな財力を誇り、義材の支援者にふさわしい立場でした。長誠は主君の畠山政長の遺志を継い

で義材を支持し、城近くの正光寺^{しょうこうじ}を改装して將軍御所^{しゅんぐんごしよ}（館）としました。義材の放生津入りを聞いた北陸の大名たちも、放生津の義材に「御礼^{おんれい}」（公式のあいさつ）を行い、協力姿勢を示しました。

また義材を支持する奉公衆も越中へ来て、幕府の仕組みが持ち込まれました。正統の幕府

義材は、京都への復帰を目指す運動を始めました。義材の政治手続きは室町幕府の方法そのまま、將軍みずから署名した御内書^{ないしょ}で支持を依頼しています。

また幕府の行政役人である奉行人^{ほうしんじん}の手になる奉書^{ほうしょ}・禁制^{きんせい}と呼ばれる文書を発行し、土地支配をめぐる裁判、支援者への領地給付、戦闘行為の停止、また各地の大名や寺社へ指示を出しています。

義材の命令の効力が及ぶ地域は広く

ありませんでしたが、京都の公家や武士たちは、京都の幕府や朝廷に仕えながら、越中の義材と連絡をとり、その言動に驚き、また喜んでいきます。

⑩ 神保長誠書状写

勸修寺（京都府）が義材にお守りと茶を贈呈したため、神保長誠が申次（取次役）の一色視元を通じて義材に報告し、お礼の返事を伝える書状です。室町幕府では、將軍に仕える武士の中から申次が選ばれ、將軍の政務を支えました。

個人寄贈

木倉豊信関係資料
原本・勸修寺文書

昭和前期

射水市新湊博物館 蔵

【史料翻刻】

（包紙）

西林院 御同宿中 神保越前守

長誠

貴報

(本紙)

猶々堅固御座候由承候、千万目
出存候、世上之時宜共不慮成行
候、何方も属泰平、以拝顔申承候
ハやと存計候、将又自逸駿被申
子細共、達 上聞候、尤目出候、
定而可為御祝着候哉、

如仰遙久不能啓上候条、背本意存候処、
預珍札候、恐悦候、殊御祈禱御札并芳
茗干袋拝領候、尤祝着畏存候、就中 公
方様江御卷数御茶御進上候、可然候、
種村方他行候間、以一色兵部大輔殿達
上聞候処、御快然之由被仰出候、委曲
自兵部可被申入候、弥御祈念可為簡要
候、仍御制札事、蒙仰聞其分申候処、
被進候、目出存候、猶々 公方様御下
向不慮之御儀、爰許馳走乍恐過賢察候、
次雖輕微其憚候、鳥目百枚令進覽候、
何様連々可申達候、委細逸見民部丞可
被申候間、閣筆候、恐惶謹言
卯月十九日 長誠(印影)「長誠」
西林院 御同宿中 貴報

〔現代語 意識〕
お久しぶりです。お守りとお茶をたく

さんいただき、ありがとうございます。
將軍義材様へも、お守りとお茶を贈ら
れたこと、種村視久殿を通じて報告し
ようと思いましたが、出張で不在のた
め、一色視久殿を通じて報告したとこ
ろ、義材様はたいへんお喜びでした。
お返しに銭百文を送ります。

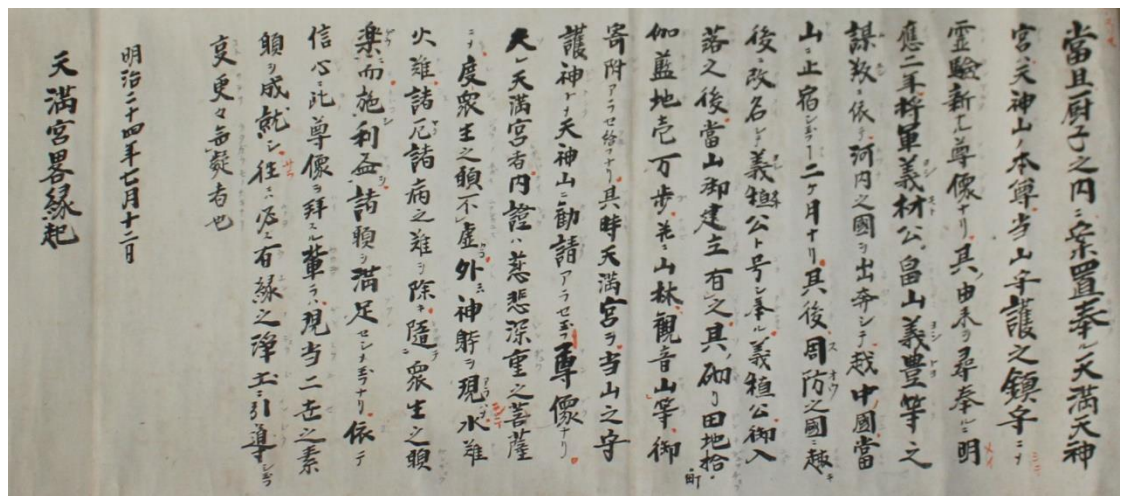
四月十九日 神保長誠
西林院の皆さまへ

追伸 早く世の中が平和になり、じか
にお話したいものです。

⑨天満宮略縁起

義材が日々祈念したと伝えられる天
神坐像じんざぞうの由来が書かれています。義材
が河内の畠山義豊はたけみちゆき(基家)の反乱を避
けて越中へ来たとき書かれています。基
家は、明応の政変のときに義材が攻め
ていた武将です。足利將軍家は代々天
神信仰を盛んに行いました。

明治二十四年(一八九一)
魚津市小川寺 光学坊 蔵



【史料翻刻】

当且厨子之内ニ案(安)置奉ル天満天神宮ハ、天神山ノ本尊、当山守護之鎮守ニシテ、靈験新ナル尊像ナリ、其ノ由来ヲ尋奉ルニ、明応二年將軍義材(ヨシモト)公(ヨシトヨ)畠山義豊等之謀叛ニ依テ河内之國ヲ出奔シテ越中之國当山ニ止宿シ玉フコト一ケ月ナリ、其後周防之國(越)ニ趣(ヨシタネ)キ、後ニ改名シテ義植公ト号シ奉ル、義植公御入落(巻)之後、当山御建立有之、其ノ砌リ田地拾町、伽藍地壹万歩并ニ觀音山等御寄附アラセ給フナリ、其時天満宮(ヲ)当山之守護神トシテ天神山ニ勸請アラセ玉フ尊像ナリ、夫レ天満宮者、内証ハ慈悲深重之菩薩ニシテ度衆生之願不虛、外ニハ神体ヲ表シ、水難火難諸厄諸病之難ヲ除キ、随衆生之願樂而施利益、諸願ヲ満足セシメ玉フナリ、依テ信心ニ此尊像ヲ拜スル輩(ヲ)ハ現当二世之素願ヲ成就シ、往(サ)ニハ必ズ有縁之浄土ニ引導シ玉フ事、更々無疑者也

明治二十四年七月十二日

天満宮略縁起

③② 木造天神坐像

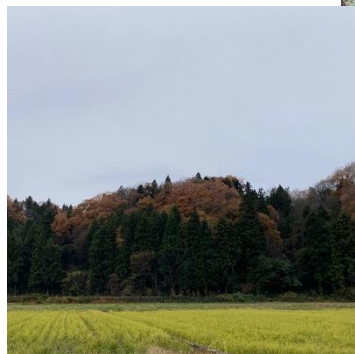
義材は、越中(越)にいるときに二か月にわたって千光寺(せんこうじ)（魚津市小川寺(おがわじ)）に滞在したと伝えられています。この神像は、義材が毎日祈りを捧げ、滞在のお礼として千光寺に奉納したとされています。そしてこの神像を安置した山は天神山(てんじんやま)と呼ばれています。帰京後、義材は千光寺に領地を寄付したと伝えられています。

伝 室町時代

魚津市小川寺 光学坊 蔵



天神山（左）と千光寺観音堂（上）

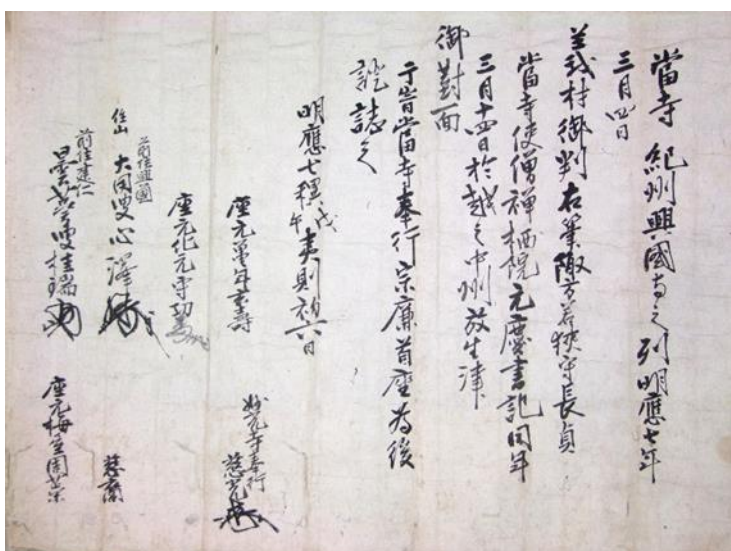


③③ 禅僧連署書状

放生津の義材のもとへ保護を願いだした寺院に対し、その許可が下りたこと

を、放生津で義材に仕えていた禅僧たちが証明したものです。室町幕府は、禅宗や真言宗の僧が將軍に仕え、政治の決定にも関わりました。この文書は、放生津幕府の政策に関わる文書で富山県内に唯一伝えられているものです。

明応七年（一四九八）
富山市布市 興国寺 蔵



【史料翻刻】

当寺 紀州興国寺之列 明応七年
三月四日

（諏訪） （農直）

義材御判 右筆諏方若狭守長貞、当寺使僧禅栖院元慶書記、同年三月十四日、於越之中州放生津、

御対面、于時当寺奉行宗廉首座為後証誌之

明応七禊戊午夷則初六日

妙光寺奉行 慈光（花押）

座元 龜年玄寿

座元 化元守功（花押）

前住興国

住山 大用叟心沢（花押）

慈裔

前住建仁

曇誓叟桂瑞（花押）

座元 梅屋周藥

〔現代語 意識〕

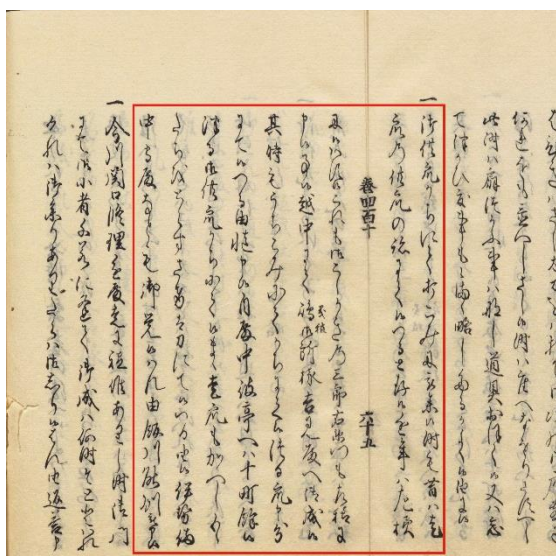
そちらのお寺の位を昇進させることについて、將軍義材様から奉行人諏訪長通殿を通じて許可書類をいただき、義材様へお礼のご挨拶を済まされたことを証明します。

④ 走衆故実（写真）

將軍に仕えた武士の仕事についてまとめた本です。義材が越中にいたとき、側近の吉見義隆の邸へ御成（公式訪問）したことが書かれていて、將軍御所から吉見邸まで十丁（約一キロメートル）あったと記しています。將軍御所の近辺に関係者の家が広い範囲で立ち並んでいました。

群書類従

国立公文書館デジタルアーカイブ



【史料翻刻】

御供衆かちにて打ち込み(義材)に参られ候う時(義材)も、昔は走衆の供衆の跡にて候いと存じ候。近年は左様に候はず候。これも御こしかきの三郎右衛門も左様に申し候う事に候う。越中にて、島御所(義材)様、吉見殿へ御成候う。其の時も打ち込みにて徒歩にて候いつる衆申す分にて候いつる由、慥かに申し候。殿中より、彼の亭へは十町余り候いつる。御供衆かちにて候まま、走衆も返股立もとらず、さげ太刀にて候いつるよしに候う。伊勢備中守殿(貞藤)なども御覚え候わんよし、飯川能州申され候う。(順藤)

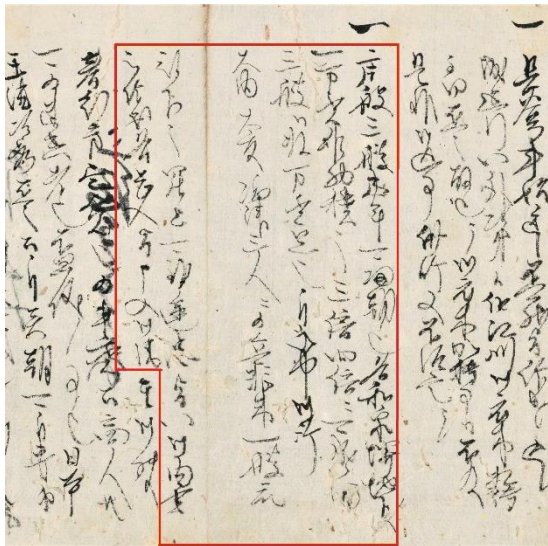
※打ち込み：順序なくばらばらである様子
 ※御成：皇族・公卿の他行を言う。
 ※返股立（かえしももち）：警護の武士が、下着の小袖のすそへみるみ袴の裾を、ひざのうえ高く巻き仕込むこと。

㊥大乗院寺社雑事記（写真）

明応五年（一四九六）に明から帰っ

てくる貿易船に関するうわさ話が書かれています。越中の義材が、西日本の大名に積み荷を与える代わりに、越中から京都を攻めるときは協力することを求めたとしています。貿易は多くの富を生みました。室町將軍は外交権を持ち「日本国王」を称していました。

明応五年四月二十八日条
 国立公文書館デジタルアーカイブ



【史料翻刻】

唐船三艘当年可帰朝也、各和泉堺地下

人一万貫雑物積之、三倍四倍二可成之間、三艘八数万貫也、自越中御所大内・大友・島津三人二為兵糧米一艘宛被下之、罷上可致運忠旨、以御内書被仰出、各畏入旨申入御請…

【現代語訳】

明へ先年送った貿易船三隻が、今年帰国するはずである。商人たちが銭一萬貫にあたる品を集めて輸出し、明で売ると三倍から四倍のもうけになる。

この帰国船について、越中の義材様は西日本の大内・大友・島津らの大名に一隻ずつ奪ってよいという命令を出されたらしい。代わりに、義材様が越中から京都へ出陣するときに、大内・大友・島津は兵を貸すように頼まれたそうだ。

各大名は義材様へ了解したと連絡したらしい。

和睦か、討伐か

義材の京都復帰方法は、二つの道がありました。一方は義材側と細川・伊勢側が話し合いで講和を行い、義材を

京都へ戻る和睦わぼくの形です。もう一方は、義材が軍を率いて京都を攻め、細川・伊勢派を追い払って占領する討伐とうはつの形でした。

義材に仕えた吉見義隆や神保長誠は和睦派でした。長誠は、放生津の支配で得た多額の銭を持たせた使者を京都へ送りました。そして細川政元をはじめ有力者と交渉させました。

しかし義材の側近である種村視久らは討伐派で、内部の意見は一致しませんでした。

放生津幕府の解消

明応七年（一四九八）、義材は放生津から越前えちぜん（福井県）一乗谷いちじやうたにの朝倉氏あさぐらひのもとへ移りました。

移動の理由は、和睦の話し合いが進んだためとする説、または討伐方針に傾いた義材と神保長誠と対立したためとする説もあり、よくわかっていません。

当時の人々は放生津の義材を「越中

公方くほう」や「越中御所」と呼びました。放生津に義材が築いた政治体制は、「越中公方政権」や国名にちなんだ「越中幕府」、また九代将軍義尚や十五代将軍義昭よしあきなどの例にならって所在地名を付けた「放生津幕府」と呼ぶ研究者がいます。

⑩放生津八幡宮祭の築山行事飾人形かざりにんぎやう（復元）

毎年秋、放生津八幡宮（射水市）では境内で臨時の祭壇を設け、神々の人形を立てて祀る「築山」が行われます。

築山では主神（オンババ）・四天王と呼ばれる五体の神々の人形のほか、地域の歴史物語を題材として毎年作り替える飾人形まうしと（客人）も立てられます。

令和四年（二〇二二）の飾人形は、明応三年（一四九四）義材が放生津城の神保長誠に命じて武家御幡を放生津城に立てさせた様子を再現しました。

国指定重要無形民俗文化財
射水市八幡町放生津八幡宮築山保存会
製作



令和4年 放生津八幡宮祭の築山行事



③⑦ 御幡 みはた
(推定復元)



明応三年（一四九四）九月、足利義材は放生津城に御幡（將軍家の正式な旗）を揚げさせました。旗を揚げる行為は合戦のために出陣する象徴です。この旗は、足利義材没後五百年を記念し、放生津八幡宮（射水市）が御幡を想像して製作したものです。二つの黒線は、二引両と呼ばれる足利家の紋です。「八幡宮」の字は、幕末の公家である近衛忠熙が放生津八幡宮に奉納した書をもとにしています。義材が立てさせた実際の御幡には、「八幡大菩薩」と書かれていたとみられます。

空前絶後の將軍再任



義材は越前から京都を攻めきれず、周防（山口県）の大内氏を頼りました。政変の主導者のひとり細川政元は、天狗の術を身につけようと修行するなど風変わりな行動が多く、永正四年（一五〇七）家臣の手で暗殺されました。永正五年（一五〇八）、義材は大内軍と京都を占領し、再び將軍となりました。しかし、義材は再び有力大名と対立して永正十八年（一五二一）四国へ逃れ、大永三年（一五二三）四月九日、阿波（徳島県）で五十八年の生涯を終えました。義材の子孫は阿波に住み、江戸時代は平島公方と呼ばれて栄えました。

コラム 政元の北陸旅行

細川政元は「常に魔法を行いて近国他国を動かし、またある時は津々浦々のお舟遊びばかりなり」（細川両家記）という不思議な人物でした。延徳三年（一四九一）三月、政元は越後（新潟県）へ旅行し、守護の上杉房定と会いました。二年後の政変に関係する内容を話し合ったとする説があります。

政元一行は旅の途中、往路の三月十三日に放生津の「普照院」、復路の四月十五日に放生津の「興福寺」で泊まり、神保長誠の歓待を受けました。「興福寺」は興化寺（射水市本町、廃寺）の誤記とみられています。室町幕府が保護する越中国内の臨濟宗寺院の中で、最高の格式を持っていました。

③⑧ 聖徳太子 并 高僧連坐像

戦国時代、浄土真宗の興正寺（京都市）は、西日本の海運に関わる人々に信者を増やしました。同じ時期に、興正寺に属する寺が越中の河川沿いに

いくつも現れました。

越中の興正寺派寺院を取りまとめた放生津の専念寺せんねんじを、神保氏は保護しました。神保氏は、西日本海運と越中の海運を結びことを目指していたと考えられます。専念寺に伝わるこの掛け軸は、浄土真宗を開いた親鸞しんらんから興正寺へ続く高僧たちが描かれていて、興正寺の教えを絵で分かりやすく表したものです。

南北朝時代（一四世紀後期）

射水市本町 専念寺 蔵



③⑨ 神保慶宗制札

神保慶宗（長誠の子）が、放生津の専念寺の境内地保護を命じた文書です。専念寺（浄土真宗東本願寺派）は、放生津を流れる内川の河口にあり、東日本に限らず、遠く山陰・山陽の海運に

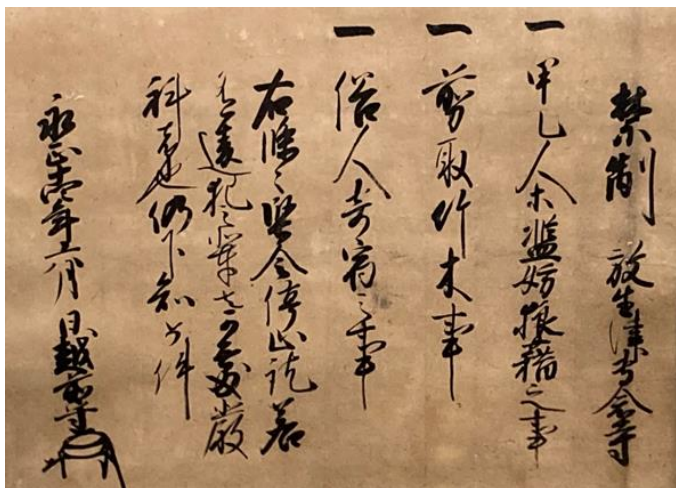
関わる人々が敬った興正寺に属していません。慶宗は、越中を離れた義材に同行して西日本へ赴き、興正寺に関わる海運網の様子を実際に見た可能性が指摘されています。慶宗は、専念寺を通じて日本海海運に高い関心を示していたと考えられています。

永正十四年（一五一七）

（指定名称「専念寺の制札」）

射水市本町 専念寺 蔵

射水市指定文化財



【史料翻刻】

禁制 放生津 専念寺

一 甲乙人等濫妨狼藉之事

一 剪取竹木事

一 俗人寄宿之事

右条々、堅令停止訖、若有違犯之輩者、可処嚴科者也、仍下知如件、

永正十四年六月 日

越前守（花押）

〔現代語 意識〕

境内で乱暴狼藉をしてはいけない。

僧でない人が住んではいけない。

右の命令を守るように。

④⑩ 神保長住制札

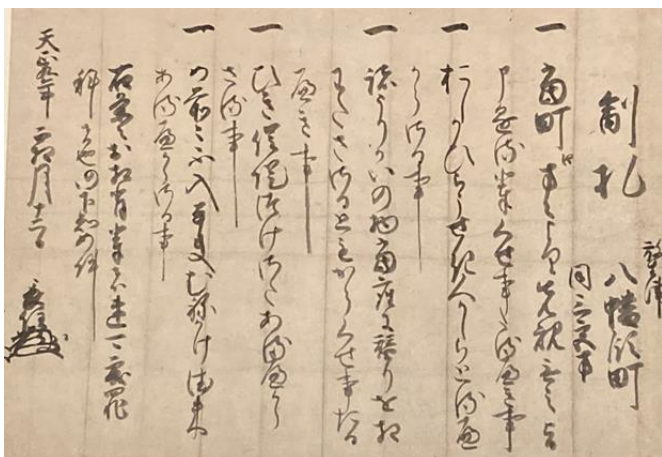
神保長住（慶宗の孫か）が、放生津の八幡宮と神明宮、山王社（日吉社）、気比社の四つの神社の前にあった門前まへ町まちに対し、臨時税の廃止や商売の正しい取引方法を定めた命令書です。

義材が越中を去った後、越後（新潟

県）の長尾氏と争った神保氏は、本拠を放生津から富山へ移しました。

政治の中心ではなくなった放生津は、これらの門前町が一つの都市を形作り、経済拠点として再興されていきました。

個人寄贈 大西家文書
天正九年（一五八一）
射水市新湊博物館 蔵
射水市指定文化財



【史料翻刻】

制札 放生津 八幡領町 同三宮方

- 一 当町江方々より先規無之旨申懸る輩、くせ事たるへきこと
 - 一 おしかひ、らうせき、人かしらとるへからさる事
 - 一 諸うりかいの物、当座に替わりを相わたささるともから、くせ事たるへき事
 - 一 ひき催促、つけさたあるへからさる事
 - 一 如前々、不入平夫、むねかけ、徳米あるへからさる事
 - 一 右条々、於相違輩者、速可処罪科者也、仍下知如件、
- 天正九年霜月十二日 長住（花押）
- 〔現代語 意識〕
むかしから決められたとおりの商売をする。こと。
押し買いをはじめ不当な取引をしないこと。
品物の代金をその場で支払うこと。
不当な裁判を起こしてはいけません。

新規の税金を設けないこと。
右の命令を守るように。

コラム 刺客を撃退

義材は歴代の足利将軍の中でも特に武芸に秀でた人でした。明応四年（一四九五）正月、越中の将軍御所が襲われましたが、義材は無事に逃れることができました。

京都復帰後の永正六年（一五〇九）十月二十六日、将軍御所で寝ていた義材を複数の刺客が襲いました。義材は太刀を抜いて一人で防戦し、負傷したものの、刺客を全て追い払いました。警備の役人は、誰も気付きませんでした。

襲撃の首謀者は、近江（滋賀県）に逃れていた前将軍の足利義澄といううわさが立ちました



コラム 改名と慈悲

義材は越前に移動した後、縁起の良い字を選び義尹と改名しました。そして京都へ戻った後に義植と改めます。この特別展では、放生津にいたころの義材の名を使っています。

江戸時代初期にまとめられた「塵塚物語」の中で、義材の性格は「正直で、生まれつき優しく、他者への心配りが行き届いていた」と評されています。そして、義材が自分の流浪の体験を思い出し、「自分が苦しい経験をしなければ、他人の苦しみはわからない」と語り、「命ある限り、自分の立場に応じて人々に慈しみの心で接するべきだ」と話したことを紹介しています。

